

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900318	
法人名	有限会社ケアサポート岡井	
事業所名	グループホームこころ	
所在地	徳島県三好郡東みよし町足代1131番地	
自己評価作成日	令和4年1月4日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和5年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は敷地周辺の田畑で米や野菜を栽培しており、育成の移り変わりや収穫を間近で楽しむことができ、収穫した旬の野菜を使用した献立をたくさん取り入れ、日々の食事作りに取り入れている。また、家庭的な雰囲気の中で利用者一人一人の残存能力に応じた役割や暮らし方をモットーに「その人らしさ」を大切に介護サービスを提供している。コロナ感染予防の観点にて面会の抑制や地域行事への参加など外部の方との交流の機会が少なくなっているが、施設建物が平屋建ての特性を生かしリビング窓越しでの面会や電話連絡等により家族との繋がりを積極的にサポートし利用者一人一人が心やすらぎ暮らせるよう心がけている。また地域医療施設との連携により訪問診療を充実させ健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣を田畑に囲まれた、閑静な場所に位置している。地域密着型サービスの意義を踏まえた、5つの理念を掲げ、利用者が住みなれた地域のなかで、自分らしく暮らし続けることができるよう支援している。敷地周辺には事業所の田畑があり、米や野菜等を栽培して、献立等に活かすなど、利用者の楽しみに繋げている。新型コロナウイルスの流行下においても、利用者が健康かつ快適に過ごすことができるよう、安全面に配慮しつつ、戸外に出かける機会を設けるよう心がけている。気候のよい日には散歩に出かけたり、通院時に馴染みのある場所をドライブしたりすることもある。また、地域住民から介護等に関する相談を受けて、関係機関に繋ぐなど、地域の福祉拠点として、役割を發揮できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に全職員で理念を唱和している。またミーティングや申し送り時には必ず理念に触れ、確認し合うようにしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。毎日、朝礼時に理念を唱和し、職員間での共有化を図っている。玄関に理念を掲示しつつ、パンフレット等にも記載し、利用者や家族、地域等にも周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に加入し秋祭りには子供神輿がホーム庭に立ち寄り利用者は窓越しであるが参拝したりと地域の行事など繋がりをもち近所つきあいが出来ている。野菜のお裾分けなど馴染みの関係もある。	事業所は、町内会に加入し、行事等に参加するなど、地域と交流を図っている。地域から介護等に関する相談を受けて、関係機関に繋ぐこともある。感染症(コロナ等)の流行下においては、窓越しに神輿を見たり、野菜の差し入れを受けたりして、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策にて地域の方と接する機会が少なく、近隣住民に逢った時にコロナ感染についての情報や予防など挨拶を兼ね会話の中でお話す事ぐらいしかできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染の観点により会議は開催できていないが、書面報告書を送付し意見や情報を頂きサービス向上に活用している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、委員や家族等に向けて、事業所の様子や活動、状況などを記載した書面を送付し、意見や助言等を得ている。出された意見等に関して、職員間で協議・検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染対策等町の担当者からメールにより情報をもらい、より密な連絡を取り合うようになっている。	管理者は、日ごろから、町の担当者と連携・協力を図っている。感染症の流行下においても、電話やメール等を活用し、情報提供を受けたり、課題等について相談したりするなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を作成し、身体拘束をしないケアを徹底している。利用者の個性やその日の状況を把握し気分転換を図ることで自由な暮らしを支援している。	事業所では、身体拘束に関する指針を作成している。定期的に、拘束に関する勉強会を開催し、拘束をしないケアに向けて、職員間での意識の統一化を図っているが、委員会を設置し、定期的に協議・検討するまでには至っていない。	今後は、身体拘束廃止に関する委員会など、定期的に職員間で協議・検討する場を設けることが望まれる。日ごろの取り組みや事例等について、職員間で話しあい、利用者等の安心・安全に向けた支援につなげることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングの際には、管理者が高齢者虐待防止法に関する事項や利用者の尊厳について話しており、周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はまだ成年後見制度などに関する研修会に参加出来ていない。リモートでの研修の機会があれば参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や重度化についての対応、コロナ感染予防対策による面会制限など詳しく説明し同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の書面報告書等送付後電話にて意見を頂くようにしている。また、利用者の状況など常にお電話にてお伝えする時にも意見を頂くようにしている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。担当制を導入し、家族等に利用者の様子を写真や文章で送付したり、電話で伝えたりして、意見等を聞き取る機会を設けている。出された意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見や要望を聞き話しやすい雰囲気でのコミュニケーションを図るようにしている。また個別で管理者と職員の対話の時間を定期的に設け様々な意見を聞けるようにしている。	管理者は、日ごろの支援やミーティング等の際に、職員からの意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。年2回、面談の機会も設けている。出された意見等をもとに、代表者やサービス管理責任者等と話し合い、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は全職員がいつでも閲覧できるようにしており、守られている。運営者が管理者であるため職員一人一人の業務内容や悩みを把握している。また、健康にも十分に留意し定期的に健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた資格取得を目標に常に向上心を持つように指導している。コロナ禍でもリモートで参加できる研修会もあり無資格にて就職してきた職員も研修する機会を設け受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や老人福祉協議会に加入している。また地域包括支援センターや近隣グループホームと電話による情報交換など連絡の取りやすい関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談のあった時には、特別な事情がない限り、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までの利用状況などの経緯についてゆっくりと聞くようになっている。話を聞き落ち着いて頂き、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族の思い、状況等をお聞きし、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知識や経験から学んだり、お互いに協働しながら生活できるような場面づくりをし、共に支え合う関係を導いている。洗濯物たたみなど職員と共に行うことが日課になって自然に行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることにより、家族と職員の思いが少しずつ重なり合い、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防による面会規制にて施設内への来訪や外出の機会がないため直接会う機会がないが、馴染みの場所や人の話を日常会話の中での話題に取り上げ懐かしんでもらっている。	事業所では、利用者の馴染みの関係継続に向けた支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、地域の理・美容院の来訪を受けるなど、関係性の継続に努めている。また、病院受診時に近隣をドライブするなど、馴染みの場との関係も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日頃から利用者同士の関係性について情報交換を行い、全職員が共有できるようにしている。また、身体の状況や気分感情により日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も本人や家族の方にお会いする機会にはお声がけするようにしており、困りごとなど相談があれば話を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の利用者との関わりの中で本人の思いや意向を察知するように努めている。意向が困難な場合はご家族に電話にて生活の様子などお伝えし情報を得ている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、表情や仕草を観察したり、家族等から情報を得たりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントで本人や家族、利用していた介護サービス事業所や担当ケアマネジャー、主治医などから情報を得るようにしている。利用後も折りに触れ本人や家族にどんな生活していたのかを聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解すると共に表情や様々な行動から感じ取り本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ感染予防のため関係者が集まったカンファレンスは開催していない。利用者個々の生活の様子をそれぞれの家族にお便りで報告し暮らしぶりや本人の思いや意向など情報提供し共有できる仕組みを作り介護計画に反映している。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえつつ、本人の趣味・活動を大切に介護計画を作成している。定期的に、モニタリングや見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しや利用者の状況の変化や家族の要望など状況に合わせて随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、利用者一人一人が満足して生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるように警察や地域消防団、民生委員に対して協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。コロナ禍において訪問診療を希望する利用者家族が増え、要望に応え協力病院に加え協力病院以外の病院からの訪問診療も整い、訪問診療体制が充実している。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に、協力医療機関からの来訪を受けて、健康状態を確認している。また、かかりつけ医の訪問診療も調整するなど、適切な医療受診に向けて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。職場内の看護職が受診に付き添い病院看護師との連携体制はとれている。看護職は3名従事しており看護職が不在の日は少ないが不在の時は介護職の記録や報告にて確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師や病院内における地域連携相談員に連絡を取り、事業所内で対応可能な段階で早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援のあり方については利用開始時期の段階から事業所のできる事を本人や家族に伝えている。また、利用者の状況に応じて家族や医師等関係者で話し合い方針を共有した上で支援に努めている。	事業所では、入所時の段階で、重度化や終末期の方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認しつつ、医師や看護師、関係機関等と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルはあるが定期的な訓練は出来ていない。通常の業務の中で救急時の対応方法など看護師から指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者、地域の消防団員の協力を得て、避難通報訓練を実施している。	年2回、地域の消防団等の協力を得て、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。避難経路の確認や通報訓練など、具体的に取り組んでいる。また、非常食等の備蓄も5日分準備し、消費期限にあわせて日ごろの食事に活用するなど、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の利用者との関わりの中で、一人一人の視点に立って常に人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないように支援している。ミーティングの際、全職員で話合っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。ミーティングなどの機会に、職員間で利用者の情報を共有し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、支援内容について確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行うようにしている。意志疎通の困難な方には表情から読み取るようにしている。また、日常生活の中で自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の個性や特徴を大切に、さりげなく寄り添い、きっかけを作ったり関心事を見つけ、一日一日をその人らしく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えは利用者本人の意向で決めており、職員は見守り支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定が困難な利用者には職員と一緒に考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の畑で収穫した季節の野菜を献立に取り入れ、調理方法や野菜に関する知識などの話題に触れる時間を大切にしている。季節行事に合わせた料理や個々の誕生日には希望する献立を提供できるよう工夫している。	食事は、三食、事業所で手作りのものを提供している。献立を考える際には、利用者からも意見を得ている。田畑で収穫した野菜や地域からの差入れも活用し、季節感を大切にしている。また、利用者と一緒におやつを作るなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録表に食事摂取量や水分摂取量を記録し把握している。個々の状態に応じ食事量や食器など個別に対応している。嚥下状態に応じとろみ剤を使用したり栄養不足には高カロリーゼリーなど補助食品を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行っている。職員は見守りを行い利用者の能力に応じて一部介助している。また、協力歯科医による訪問歯科検診や状況に応じ治療や義歯の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に把握し、紙パンツや尿取りパットの利用も合わせてトイレでの排泄を支援し自立を促している。夜間も状況に応じ居室内にポータブルトイレを設置したり一人一人に応じた排泄支援に取り組んでいる。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は、本人の心身状況にあわせて、トイレへの誘導や介助を行っている。夜間もポータブルトイレ等を活用し、できる限りトイレで排泄することができるよう支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、体を動かす機会を適宜に取り入れ、こまめな水分補給を行い自然排便を促している。必要な方には主治医に相談し下剤薬を使用し便秘を防ぐよう留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の心身状態に応じ3日に1回は入浴することができるよう支援している。入浴の際は利用者と一緒にゆっくりと会話したり気分が入浴出来ている。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。入浴拒否がある場合は、声をかける順番等に配慮している。入浴時に職員と会話したり、入浴剤を活用したりして、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し生活リズムを整えるように努めている。一人一人の体調や表情、希望等を考慮しゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡ししたり、口の中まで服薬介助したりと状態に応じ服薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好や趣味を現在の状況と合わせ考慮し、個別に応じた楽しみや役割を見出し支援できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は数少なく、今年は地域の公園にお花見ドライブに出掛けたり天気の良い日にホーム庭を散歩したり日光浴し気分転換を図る程度の外出支援となっている。	事業所では、気候のよい日には近隣を散歩するなど、日常的な外出を支援している。感染症の流行下においては、安全面に配慮しつつ、少人数でドライブするなど、できる限り戸外に出かけられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり事業所側で管理している。本人よりティッシュや歯磨き粉や好きなお菓子などの買い物を頼まれた時は預かり金で買い物をし本人に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有し家族と自由に連絡とる利用者、ご主人様からの手紙を楽しみに待たれている利用者、事業所の電話にて家族との会話を楽しんだりと家族との繋がりを感じ生活を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には穏やかな光が入り、床暖房により足下から暖かく過ごせる環境設備が整っている。台所からは調理を準備する音やにおいなど生活感を感じ窓の外には田畑を見渡せる野菜の成長や季節の変化を感じることができる。	共用空間は明るく、清潔感がある。調理の音やにおいなど、家庭的な雰囲気を感じることができるようにしている。感染症の流行に伴い、定期的に消毒や換気を行いつつ、空気清浄機を設置するなど、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下二カ所にソファを設置しており気の合った利用者同士が談話したり、一人でゆっくり過ごすことができる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と家族と相談した上で本人の馴染みのベッドや寝具、家具など使い慣れた日用品など持ち込んでもらっている。居室には家族の写真を飾っている利用者もいる。	居室には、利用者の使い慣れた家具や日用品など、馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。安全面に配慮し、家具の配置を工夫するなど、利用者が居心地よく過ごすことができるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の力を活かし安全な環境設備に努めている。心身の状況が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合はその都度全職員で話し合っている。本人の不安を取り除くように努め自信と力を取り戻せるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に全職員で理念を唱和している。またミーティングや申し送り時には必ず理念に触れ、確認し合うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所として町内会に加入し秋祭りには子供神輿がホーム庭に立ち寄り利用者は窓越しであるが参拝したりと地域の行事など繋がりをもち近所つきあいが出来ている。野菜のお裾分けなど馴染みの関係もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策にて地域の方と接する機会が少なく、近隣住民に逢った時にコロナ感染についての情報や予防など挨拶を兼ね会話の中でお話しする事ぐらいしかできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染の観点により会議は開催できていないが、書面報告書を送付し意見や情報を頂きサービス向上に活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染対策等町の担当者からメールにより情報をもらい、より密な連絡を取り合うようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を作成し、身体拘束をしないケアを徹底している。利用者の個性やその日の状況を把握し気分転換を図ることで自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングの際には、管理者が高齢者虐待防止法に関する事項や利用者の尊厳について話しており、周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はまだ成年後見制度などに関する研修会に参加出来ていない。リモートでの研修の機会があれば参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や重度化についての対応、コロナ感染予防対策による面会制限など詳しく説明し同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の書面報告書等送付後電話にて意見を頂くようにしている。また、利用者の状況など常にお電話にてお伝えする時にも意見を頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見や要望を聞き話しやすい雰囲気でのコミュニケーションを図るようにしている。また個別で管理者と職員の対話の時間を定期的に設け様々な意見を聞けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は全職員がいつでも閲覧できるようにしており、守られている。運営者が管理者であるため職員一人一人の業務内容や悩みを把握している。また、健康にも十分に留意し定期的に健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた資格取得を目標に常に向上心を持つように指導している。コロナ禍でもリモートで参加できる研修会もあり無資格にて就職してきた職員も研修する機会を設け受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や老人福祉協議会に加入している。また地域包括支援センターや近隣グループホームと電話による情報交換など連絡の取りやすい関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談のあった時には、特別な事情がない限り、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までの利用状況などの経緯についてゆっくりと聞くようになっている。話を聞き落ち着いて頂き、次の段階の相談に繋げている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族の思い、状況等をお聞きし、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知識や経験から学んだり、お互いに協働しながら生活できるような場面づくりをし、共に支え合う関係を導いている。洗濯物たたみなど職員と共に行うことが日課になって自然に行えている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることにより、家族と職員の思いが少しずつ重なり合い、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防による面会規制にて施設内への来訪や外出の機会がないため直接会う機会がないが、馴染みの場所や人の話を日常会話の中での話題に取り上げ懐かしんでもらっている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日頃から利用者同士の関係性について情報交換を行い、全職員が共有できるようにしている。また、身体の状況や気分感情により日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も本人や家族の方にお会いする機会にはお声がけするようにしており、困りごとなど相談があれば話を聞いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の利用者との関わりの中で本人の思いや意向を察知するように努めている。意向が困難な場合はご家族に電話にて生活の様子などお伝えし情報を得ている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントで本人や家族、利用していた介護サービス事業所や担当ケアマネジャー、主治医などから情報を得るようにしている。利用後も折りに触れ本人や家族にどんな生活をしてたのかを聞き把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解すると共に表情や様々な行動から感じ取り本人の全体像の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ感染予防のため関係者が集まったのカンファレンスは開催していない。利用者個々の生活の様子をそれぞれの家族にお便りで報告し暮らしぶりや本人の思いや意向など情報提供し共有できる仕組みを作り介護計画に反映している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しや利用者の状況の変化や家族の要望など状況に合わせて随時見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、利用者一人一人が満足して生活できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるように警察や地域消防団、民生委員に対して協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。コロナ禍において訪問診療を希望する利用者家族が増え、要望に応え協力病院に加え協力病院以外の病院からの訪問診療も整い、訪問診療体制が充実している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。職場内の看護職が受診に付き添い病院看護師との連携体制はとれている。看護職は3名従事しており看護職が不在の日は少ないが不在の時は介護職の記録や報告にて確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師や病院内における地域連携相談員に連絡をとり、事業所内で対応可能な段階で早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援のあり方については利用開始時期の段階から事業所のできる事を本人や家族に伝えている。また、利用者の状況に応じて家族や医師等関係者で話し合い方針を共有した上で支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルはあるが定期的な訓練は出来ていない。通常の業務の中で救急時の対応方法など看護師から指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者、地域の消防団員の協力を得て、避難通報訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の利用者との関わりの中で、一人一人の視点に立って常に人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないように支援している。ミーティングの際、全職員で話合っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行うようにしている。意志疎通の困難な方には表情から読み取るようにしている。また、日常生活の中で自己決定できる場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の個性や特徴を大切に、さりげなく寄り添い、きっかけを作ったり関心事を見つけ、一日一日をその人らしく過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えは利用者本人の意向で決めており、職員は見守り支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定が困難な利用者には職員と一緒に考え支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の畑で収穫した季節の野菜を献立に取り入れ、調理方法や野菜に関する知識などの話題に触れる時間を大切にしている。季節行事に合わせた料理や個々の誕生日には希望する献立を提供できるよう工夫している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録表に食事摂取量や水分摂取量を記録し把握している。個々の状態に応じた食事量や食器など個別に対応している。嚥下状態に応じたろみ剤を使用したり栄養不足には高カロリーゼリーなど補助食品を使用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行っている。職員は見守りを行い利用者の能力に応じて一部介助している。また、協力歯科医による訪問歯科検診や状況に応じた治療や義歯の調整を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に把握し、紙パンツや尿取りパットの利用も合わせトイレでの排泄を支援し自立を促している。夜間も状況に応じ居室内にポータブルトイレを設置したり一人一人に応じた排泄支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、体を動かす機会を適宜に取り入れ、こまめな水分補給を行い自然排便を促している。必要な方には主治医に相談し下剤薬を使用し便秘を防ぐよう留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の心身状態に応じ3日に1回は入浴することができるよう支援している。入浴の際は利用者と一緒にゆっくりと会話しつろいだ気分で入浴出来ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し生活リズムを整えるように努めている。一人一人の体調や表情、希望等を考慮しゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡ししたり、口の中まで服薬介助したりと状態に応じ服薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好や趣味を現在の状況と合わせ考慮し、個別に応じた楽しみや役割を見出し支援できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は数少なく、今年は地域の公園にお花見ドライブに出掛けたり天気の良い日にホーム庭を散歩したり日光浴し気分転換を図る程度の外出支援となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり事業所側で管理している。本人よりティッシュや歯磨き粉や好きなお菓子などの買い物頼まれた時は預かり金で買い物をし本人に伝えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有し家族と自由に連絡とる利用者、利用者より家族へ伝えたい事をはがきに書いたり、事業所の電話にて家族との会話を楽しんだりと家族との繋がりを感じ生活を送っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には穏やかな光が入り、床暖房により足下から暖かく過ごせる環境設備が整っている。台所からは調理を準備する音やにおいなど生活感を感じ窓の外には田畑を見渡せる野菜の成長や季節の変化を感じることができる。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置しており気の合った利用者同士が談話したり、一人でゆっくり過ごすことができる空間となっておりお気に入りの場所である。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と家族と相談した上で本人の馴染みの家具、テレビなど使い慣れた日用品など持ち込んでもらっている。居室ベッドの位置も利用者に応じた配置場所となっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の力を活かし安全な環境設備に努めている。心身の状況が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合はその都度全職員で話し合っている。本人の不安を取り除くように努め自信と力を取り戻せるように支援している。			